

「防災活動」と「社会奉仕」

●ご出席

■山口県土木建築部長 辻 英夫



■社団法人山口県建設業協会会長 藤本 宏司

山口県建設業協会
会長 藤本 宏司



山口県土木協会連合会
会長 宮崎 衛



私ども地元の建設業は、戦後の荒廃した郷土の復興工事、キジア、ルースなどの大災害の復旧工事により力をつけ、その後の高度経済成長期での躍進、そしてオイルショックやバブル崩壊などの経済変革に対応しながら、地域の社会資本の整備に携わってまいりました。

道路、河川やビル、住宅などの建設工事は、大手建設業をはじめ、電気や空調などの専門工事業、地元の建設業など、多様な建設業がその得意な分野に応じ分担、協力しながら進めております。

一方、自然災害時の応急対策業務や公共施設の維持

管理業務は、地域の人々の生命や財産を守り、公共施設の機能を確保する建設業の重要な仕事ですが、こうした分野は、世間あまり知られていない仕事です。

この小冊子は、地域に密着した地元の建設業の防災活動や環境美化などの社会貢献活動などにスポットを当て、その姿を皆様方に少しでも知っていただければと思い発刊しました。

私ども地域に根ざした地元の建設業は、これからも地域社会を支える礎石や柱の役割を担い、皆様方とともに、より安全で快適な地域社会の創造に努めてまいりますので、お気付きやご意見などをお寄せいただければ幸いです。

今年、協会設立五十周年を迎える建設業協会。来年はいよいよ二十一世紀となる。この年、山口では久々のビッグイベント山口きらら博が開催される。そんな今、山口県の建設業はいかにあるべきかを、山口県土木建築部長・辻英夫さんと、社団法人山口県建設業協会会長・藤本宏司さんに語ってもらいました。



辻／今、山口県では少子化、高齢化、情報網の多様化、環境の悪化など、多くの問題があります。当

21世紀、我々のやるべきこと
然、建設業もこれらの影響に合わせて変化が要求されます。なかでも雇用の確保が重要な問題です。また、公共工事についても「造る側から、使う側へ」主導権が移ってきましたね。

藤本／公共事業に対して、国民の不信感が生まれています。これは気を引き締めて対処しなければなりません。

辻／経済的にも社会全体が大きな転換期だと思います。建設業もこの変化に対応できる体質に改善しなければならぬでしょうね。

藤本／いずれにしても厳しい時期

です。頑張らねばなりませんね。いい二十一世紀を迎えるために。

山口きらら博のお土産は「きれいな山口県」

協会／二〇〇一年に山口県で行われる山口きらら博について、協会もなんらかの参加をするのですか？

辻／二十一世紀最初の年、景気低迷など、色々大変な時ではあります。だからこそ、これが経済力高揚のきっかけになればと思いま



藤本 宏司
KOUJI FUJIMOTO
(社)山口県建設業協会会長

す。県民総参加を謳っているの大きいに参加していただき、永続的な地域活性化に役立つことを願っています。協会にも手伝わってもらうことがあると思います。

藤本／我々が直接出展することはできませんが、例えば催事への協

山口県全土をグリーンアップス！

賛や、入場券購入などの間接的協力は考えています。まずは全県グリーンアップ作戦を徹底し、県外からのお客様に「山口県はきれい」と感じて帰っていただくための美化奉仕活動を積極的に行います。辻／それは大変重要なことだと思います。



協会／復旧作業は終わりましたか？

藤本／協会では今回の台風でも、全県で協会員が緊急出動、応急処置、復旧作業、廃棄物、残骸処理などを各地で行いました。

協会／去年の台風十八号についてですが？

辻／近年にない大きな被害でした。県内被害総額は約二百億円でした。今回の台風の特徴は高潮被害が最も大きかったことです。瀬戸内海沿岸は多くの所が被害を受けました。特に、山口宇部空港が水浸しになったのは前代未聞のことです。

協会／迅速な対応に住民のみならずも感謝されていると思います。藤本／まあ、そんな私達の活動が世間あまり知られていないのが少々淋しいです。協会では、平成十一年に「社会貢献活動の充実と活性化を図る」ことを重点事業としました。以前から防災活動、奉仕活動は行っていました。一般的には建設業者がやっていることは知られていません。そこでこの「ピラー」を発刊し、知ってもらい、励みにしたいと思えます。

辻／建設業のイメージが少しでも良くなればと思います。

地域のためにどのような役割立つことができるのか

辻／阪神大震災、去年の台風十八号などで、今、危機管理体制が問われています。できるだけ早く災害現場を見つけ、いち早く応急処置と復旧作業をできるとすれば、地元で人員と物資を迅速に手配できる建設業者の力を借りることが

一番だと思えます。そこで平成十一年一月、県と協会との間で協定を結びました。具体的には「道路を主にしたパトロール、災害応急処置などの作業」をしてもらいます。藤本／協会では各支部で分担範囲を決め、全県をカバーできる体制を整えています。

山口県をまるごとグリーンアップ！

協会／もう一つ「公共施設グリーンアップ作戦」とは何か、お聞きしたいのですが？

藤本／従来、各地域で住民の皆さんと一緒に道路や河川の清掃活動を行ってきました。後に県土木や市町村とも協力するようになりました。そこで、もっと一般に広く知らせ、活動の輪を広げるために「公共施設グリーンアップ作戦」と題して「みんなで地元をきれいにしよう」の心意気を地域住民に喚起することを目的として活動しています。しかしこれは、あくまでも各地元中心で活動し、県や協会本部から指示はしません。地域ごとにそれぞれやり易い状態で自主的に行っています。

協会／では、最後にこれからの建設業について一言お願いします。

辻／最初にも言いましたが、雇用の確保は公共事業の大切な役割で



辻 英夫
HIDEO TSUJI
山口県土木建築部長

